2027年6月期　第1四半期決算説明資料



株式会社 WOLVES HAND

2026年11月

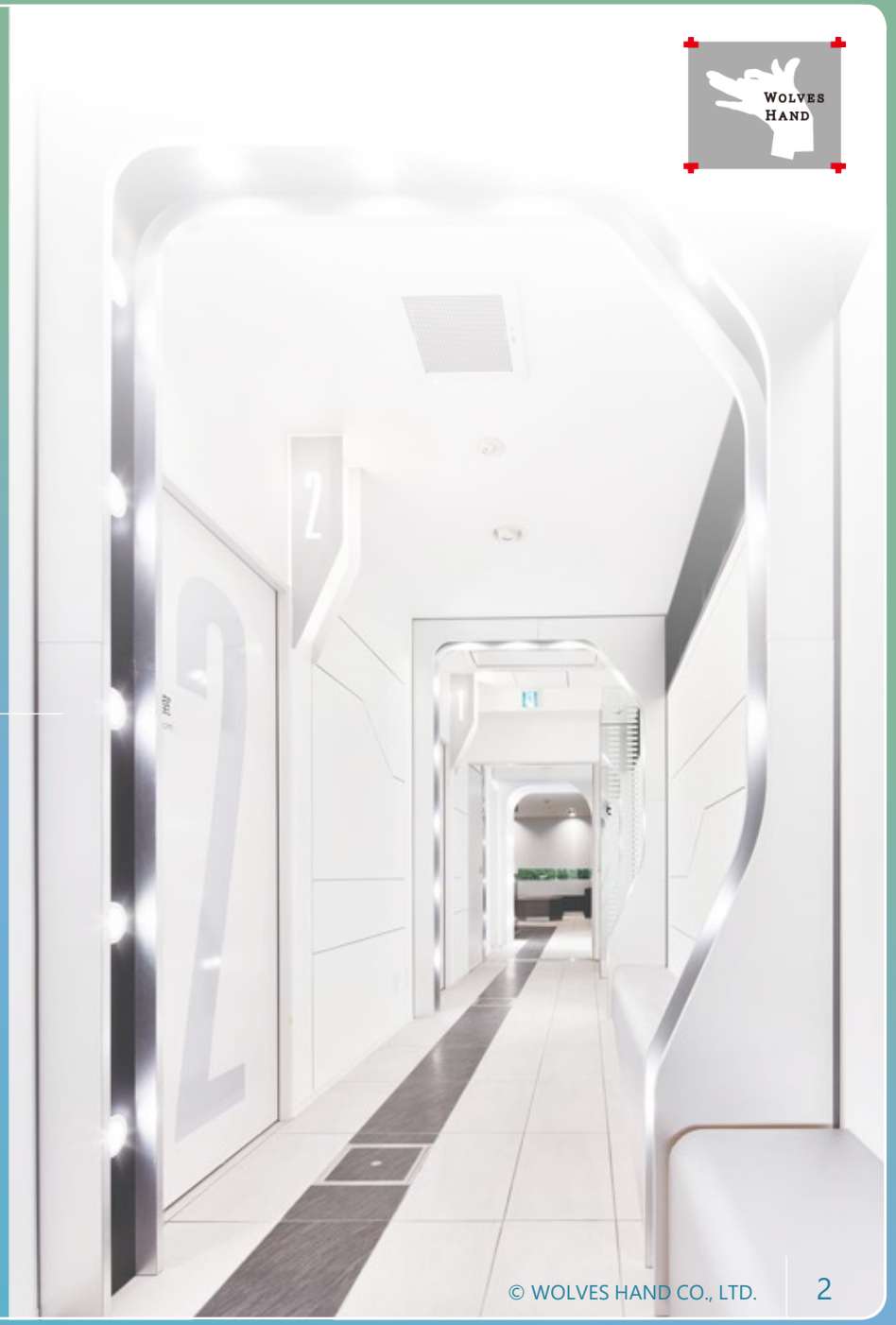
Contents

1. 2027年6月期 第1四半期決算の概要
2. 当期の当社の取り組み及び翌期業績予想の概要
3. 各事業の概況
   - I. 動物病院ネットワーク事業
   - II. 医療衛生医療機器事業
   - III. バイオマテリアル事業
   - IV. メディカルデータソリューション事業
   - V. 研究開発受託事業

© WOLVES HAND CO., LTD.

2027年6月期 第1四半期決算の概要

1



© WOLVES HAND CO., LTD.

2027年6月期　第1四半期連結業績実績

- **売上高は前年同期比＋24.2%増収、営業利益は前年同期比+16.5%の増益**
- **既存病院のオーガニック成長による増収、前期にM&Aを実施した飛鳥メディカル㈱、㈱See、カルテック㈱及び2027/6期にM&Aを実施したメディトリックス㈱、ノースワン㈱の寄与により増収**
- **営業利益については、グループ経営による事業効率化やコストシナジー、医療設備の拡充等の施策効果が顕在化した結果、M&Aに伴うのれん償却費や人件費の上昇をカバーし増益**

（単位：百万円）

	2026年6月期 第1四半期実績	**2027年6月期 第1四半期実績**	2026年6月期第1四半期実績比較		主な増減理由
			増減額	増減率	
売上高	1,365	**1,695**	+330	+24.2%	既存病院の増収、2026/6期にM&Aを実施した飛鳥メディカル㈱、㈱See、カルテック㈱、2027/6期にM&Aを実施したメディトリックス㈱、ノースワン㈱の寄与により増収
営業利益	239	**278**	+39	+16.5%	M&Aに伴うのれん償却費や人件費上昇の影響があったものの、グループ経営による事業効率化およびコストシナジー等により増益
経常利益	243	**283**	+40	+16.3%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	165	**191**	+26	+15.8%	
EBITDA　※	327	**382**	+55	+16.6%	
1株当たり当期純利益	22円13銭	**25円30銭**	3円17銭	+14.3%	

※EBITDA＝営業利益+減価償却費+のれん償却費

© WOLVES HAND CO., LTD.

バランスシートの状況

- メディトリックス㈱、ノースワン㈱の株式取得を自己資金で実施したことにより現預金は前期末比減少
- 自己資本比率は前期末から5.2%増加し**59.9%に上昇**しており、**財務健全性がさらに強化**されている

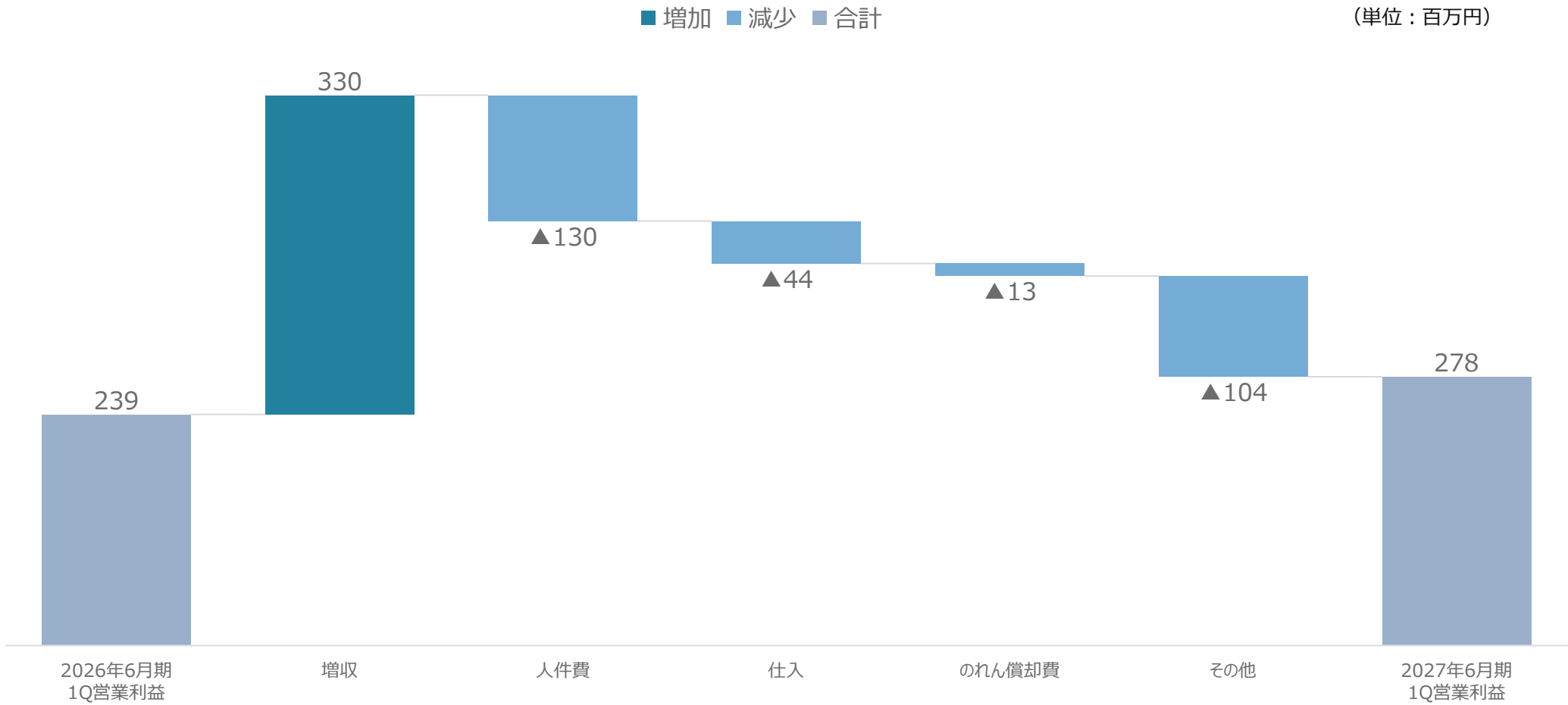
（単位：百万円）

	2026年6月期	2027年6月期 第1四半期末	増減額	主な増減理由
流動資産	1,987	**1,742**	▲245	
現預金	808	**448**	▲360	メディトリックス㈱、ノースワン㈱のM&Aを自己資金で実施
売掛金	334	**393**	+59	
固定資産	4,780	**5,750**	+970	
建物及び構築物	807	**796**	▲11	
土地	1,597	**1,597**	+0	
のれん	1,757	**2,143**	+386	
資産合計	6,768	**7,492**	+724	
流動負債	1,248	**1,168**	▲80	
１年内返済予定の長期借入金	447	**450**	+3	メディトリックス㈱の連結子会社化による増加
未払法人税等	275	**135**	▲140	
固定負債	1,801	**1,813**	+12	
長期借入金	1,526	**1,533**	+7	メディトリックス㈱の連結子会社化による増加
負債合計	3,049	**2,981**	▲68	
純資産	3,718	**4,510**	+792	
負債・純資産合計	6,768	**7,492**	+724	
自己資本比率	54.7%	**59.9%**	+5.2%	

© WOLVES HAND CO., LTD.

営業利益増減要因

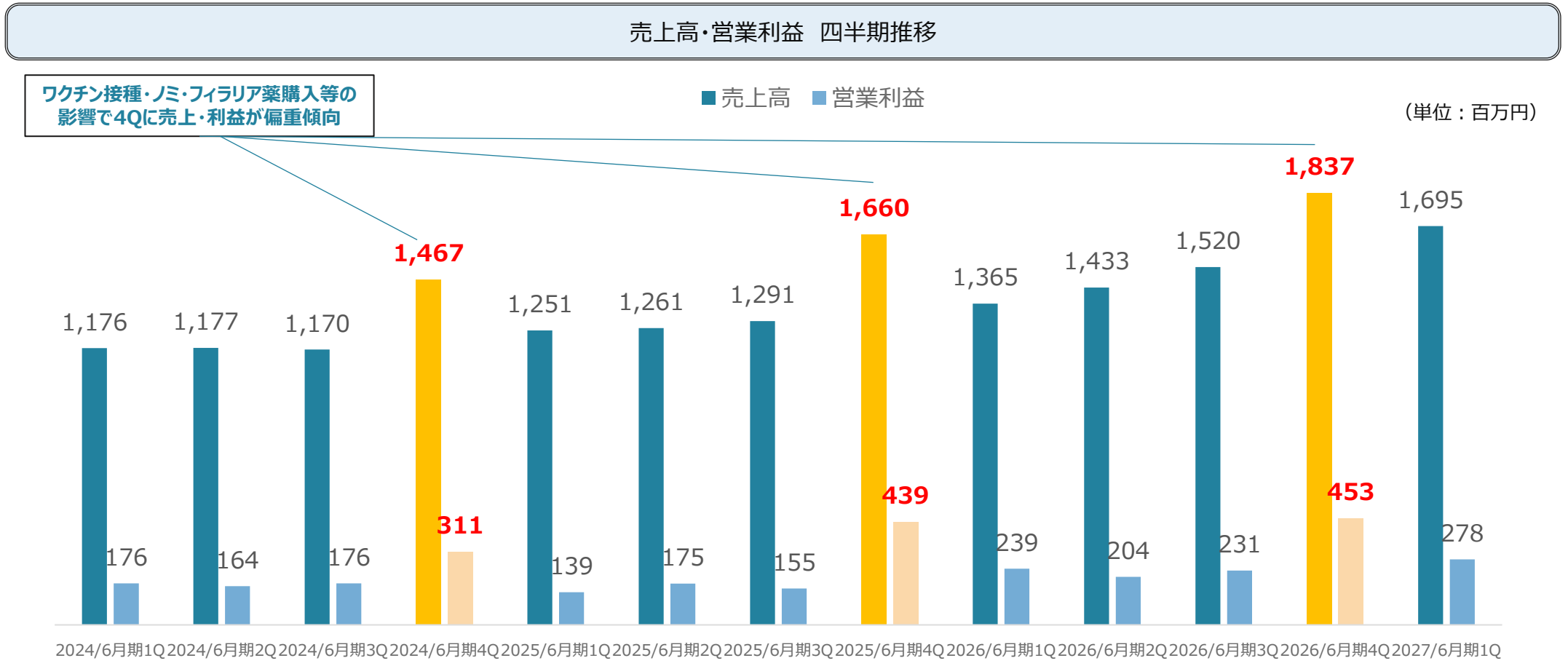
- 売上高は既存病院のオーガニック成長による増収、前期にM&Aを実施した飛鳥メディカル㈱、㈱See、カルテック㈱の寄与及び2027/6期にM&Aを実施したメディトリックス㈱、ノースワン㈱の寄与により増収
- M&Aに伴うのれん償却費や人件費は増加するも、グループ経営による事業効率化やコストシナジー、医療設備の拡充等の施策効果が顕在化した結果、**営業利益は前年同期比+16.5%の増益**



© WOLVES HAND CO., LTD.

売上高･営業利益　四半期推移

- 既存病院の増収やM&Aを実施した飛鳥メディカル㈱、㈱See、メディトリックス㈱、ノースワン㈱の業績寄与によりＱｏＱで**増収･増益**を達成
- 狂犬病ワクチンの接種やノミ･フィラリア薬等の購入が集中する3月から6月にかけて来院数が大幅に増加し繁忙期になる傾向があるため、四半期における業績は、**４Ｑにおいて売上高及び営業利益が偏重傾向**



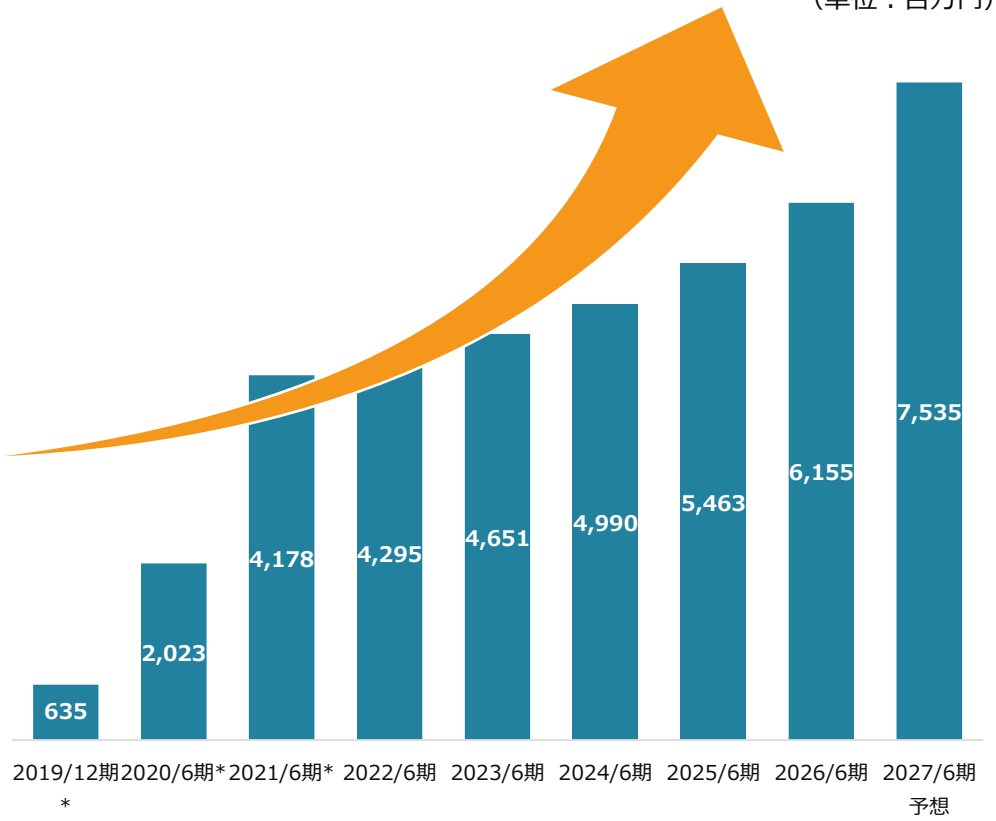
© WOLVES HAND CO., LTD.

経営指標の推移

- 2019年の設立以降、**7期連続増収増益中、2027年6月期も過去最高売上・最高利益を予想**
- EBITDAマージンは20%超

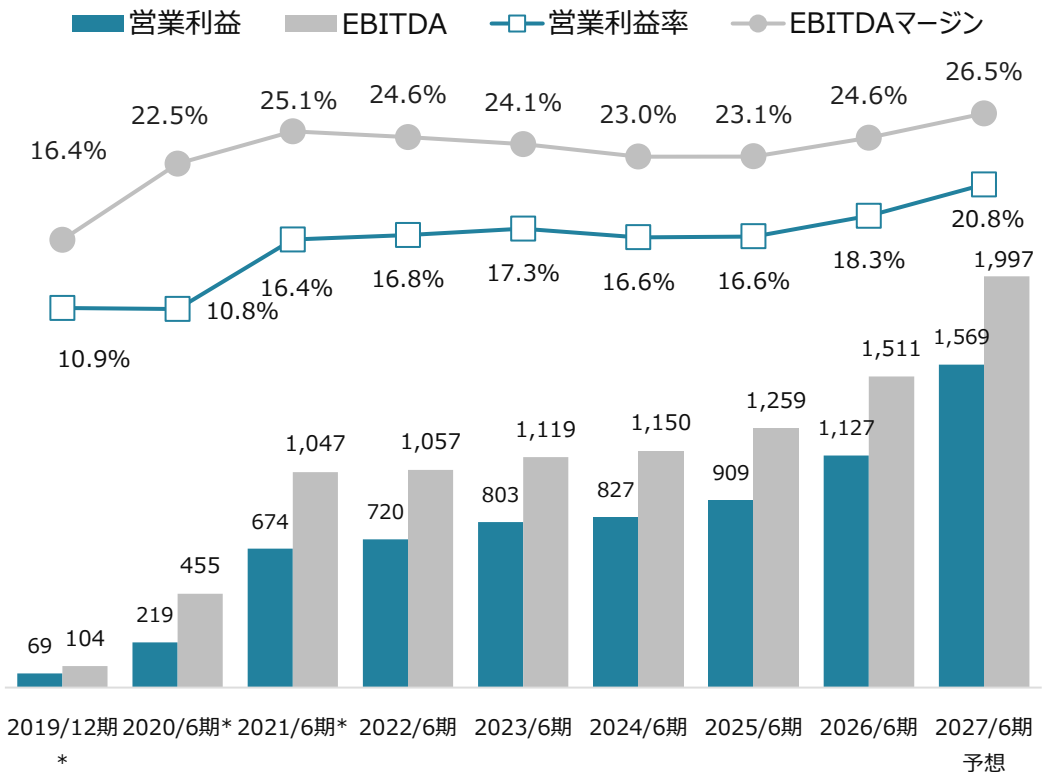
売上高の推移

（単位：百万円）



利益及び利益率の推移

（単位：百万円）



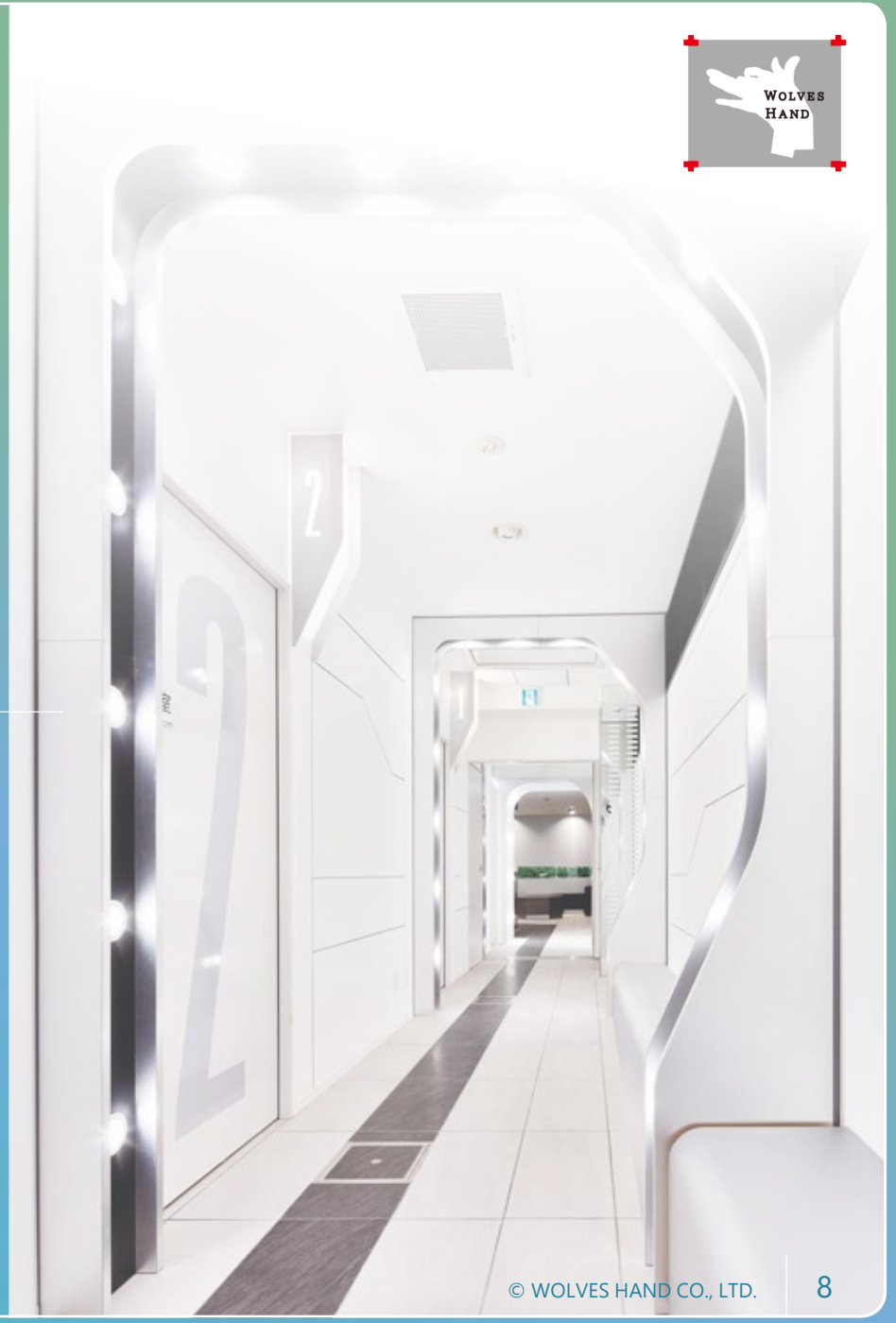
*EBITDA＝営業利益+減価償却費+のれん償却費

*2019/12期は9ヵ月、2020/6期は6ヵ月の変則決算（2019/12期は、2019/6に動物病院事業取込み、実質的に事業開始） 2021/6期以前は単体決算

© WOLVES HAND CO., LTD.

当期の当社の取り組み及び翌期業績予想の概要

2



© WOLVES HAND CO., LTD.

2027年6月期における当社グループの取り組み（獣医療価値創造プラットフォームの構築）

- コア事業である動物病院事業を中核としながら、「獣医療価値創造プラットフォーム」の構築に向けて戦略的M&Aを推進。
- 医療衛生機器、バイオマテリアル、CRO・SMO事業をグループ事業に取り込み完了。翌期から本格的に収益の多層化を実現。
- 獣医療を起点に、ヒトの医療分野、環境課題（人獣共通感染症など）に関連する複数の市場において継続的な事業領域の拡張と新たな収益機会の創出を図る。

＜個々の事業集合体ではなく、相互に連携する「プラットフォームバリュー」を企図＞

WOLVES HAND プラットフォームバリュー　価値創造エンジン

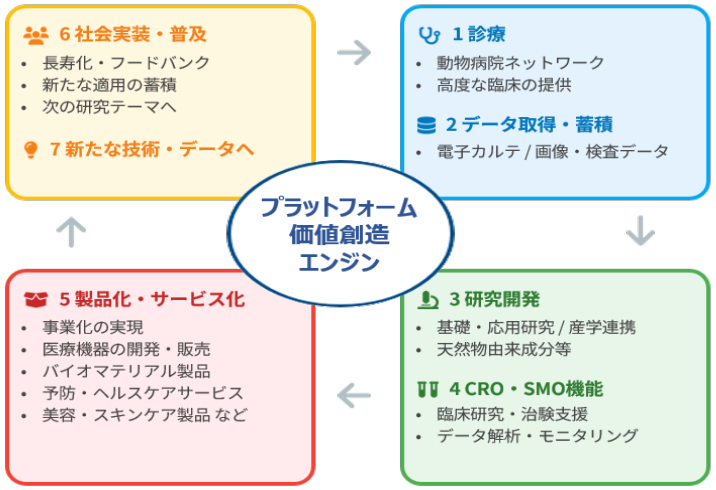
One Healthの実現に向けて、動物医療からヒト医療・環境領域へ価値を創出する統合プラットフォーム

当社グループの強み（統合アセット）＝ 収益の源泉

1. **動物病院ネットワーク＜臨床インフラ＞**
   全国の動物病院ネットワーク / 症例蓄積・獣医師の臨床経験
2. **医療機器事業（飛鳥メディカル）** 2025年10月連結
   調達から販売まで自社完結 / 製造・販売・保守
3. **衛生環境事業（カルテック）** 2026年1月連結
   光触媒技術の応用/空気清浄（脱臭・防ウィルス）の徹底 / 院内環境改善と健康配慮事業
4. **バイオマテリアル事業** 2026年4月事業開始（移管）
   キチンナノファイバーの自社生産・販売 / 再生医療・創薬支援
5. **先端医療研究開発事業**
   先端医療技術・創薬・AI医療機器など / 産学連携
6. **電子カルテシステム**
   次世代型電子カルテ 開発（AI）/ データ統合基盤 / 解析事業
7. **VMN (Veterinary Medical Network)**
   獣医師に特化した情報プラットフォーム / 臨床知の集積・教育
8. **CRO・SMO事業（メディトリックス）** 2026年7月連結
   臨床研究支援・治験モニタリング / データマネジメント・統計解析

新たな収益ドライバーを獲得し、事業化・商業化を推進

研究から価値提供までの一貫した収益化サイクルで、継続的な事業機会を創出



研究 ー 治験支援 ー 製品化 ー 価値提供 の導線を強化
One Healthプラットフォームの事業化力を向上し、収益機会を最大化

One Healthの定義

人の健康、動物の健康、環境の健全性は相互に関連し、影響し合うという考え方。それらを一体的に捉え、相互の健康と持続可能な社会の実現を目指すアプローチ。WOLVES HAND は、動物医療を起点にOne Healthの実現に貢献します。

One Healthが生み出す 3つの社会価値（＝持続的な事業機会）

① 動物の健康と福祉の向上
- 高度な獣医療の提供と質の向上
- 予防医療の推進によるQOL向上
- 長寿化に向けた継続的ケア
- 動物と人のより良い共生社会へ

② ヒト医療への貢献（知見・データの応用）
- ペット医療分野のヒト医療へのブリッジング
- 抗菌・アレルゲン・天然由来成分の応用
- 化粧品・スキンケア市場への展開

③ 環境・感染症対策への貢献
- 感染症の予防・制御に貢献
- 環境負荷の低減と持続可能性の推進
- 抗菌素材による循環型社会の実現

動物・ヒト・環境の健康を統合的に守り、
持続可能な社会の実現と新たな市場機会の創出へ

Platform Flywheel（循環効用）による好循環の仕組み

株主・投資家の皆さまへ

プラットフォーム事業展開により、研究から事業化まで一気通貫の収益創出モデルをさらに強化し、
持続可能な収益機会拡大を目指します。

統合によるシナジーと事業化力の強化で、持続的な成長と収益拡大へ

中長期の収益機会最大化を図る
多様な事業領域で新たな価値を創出
→ グループシナジーの早期顕在化を推進
統合アセットの連携で成長を最大化
→ 新たな事業機会と価値提供を強化
知見・データ・人材のイノベーション

当社グループの競争優位性 ＝ 収益機会の源泉

強固な基盤・ネットワーク展開 / 自社開発の電子カルテシステム / 豊富なデータと臨床の現場 / CRO・SMO機能による事業化支援 / 産学連携等による研究・実用化基盤 / One Healthを起点としたプラットフォーム

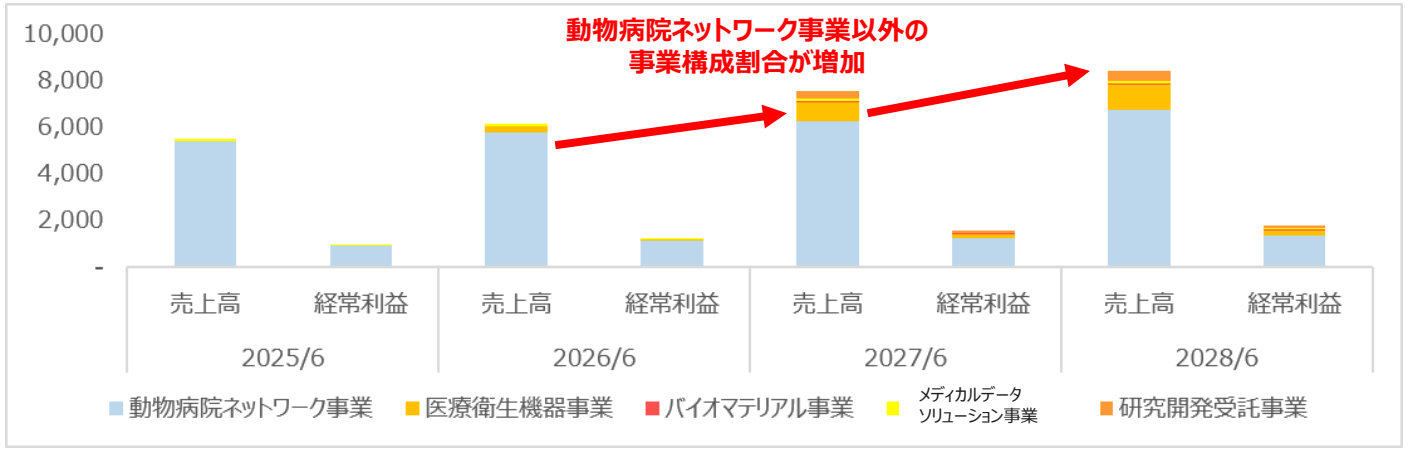
© WOLVES HAND CO., LTD.

獣医療価値創造プラットフォームの事業ポートフォリオの状況

- 2026/6期においてプラットフォームの基盤が整備され、動物病院ネットワーク事業以外の事業基盤を確立。
- 2027/6期以降は動物病院ネットワーク事業以外の事業において継続的な事業領域の拡張と新たな収益機会の創出が行われることで売上・利益の増加を見込む。

事業ポートフォリオ別売上・経常利益の推移

事業区分	2025/6（実績）			2026/6（実績）			2027/6（予測）			2028/6（予測）		
	売上高	経常利益	利益率	売上高	経常利益	利益率	売上高	経常利益	利益率	売上高	経常利益	利益率
動物病院ネットワーク事業	5,341	890	16.7%	5,763	1,046	18.1%	6,210	1,215	19.6%	6,742	1,324	19.6%
医療衛生機器事業	-	-	0.0%	268	64	23.8%	800	171	21.4%	1,400	333	23.8%
バイオマテリアル事業	-	-	0.0%	-	-	0.0%	70	40	57.1%	150	86	57.1%
メディカルデータソリューション事業	123	18	14.9%	125	22	17.8%	125	22	17.8%	250	90	36.0%
研究開発受託事業	-	-	0.0%	-	-	0.0%	330	121	36.7%	500	157	31.4%
合計	5,464	909	16.6%	6,156	1,132	18.4%	7,535	1,570	20.8%	9,042	1,989	22.0%



© WOLVES HAND CO., LTD.

2027年6月期 連結業績予想

- 四半期における業績は、４Ｑにおいて売上高及び営業利益が偏重傾向であることを考慮すると、現時点において計画を上回る進捗率となっている。
- 継続して経費の削減実施及び**利益率が高い動物病院ネットワーク事業以外の事業の規模拡大**により営業利益増加を見込む

	2027年6月期 業績予想	**2027年6月期 1Q実績**	進捗率	※参考 2026年1Q 対業績予想進捗率
売上高	7,535	**1,695**	22.5%	+23.7%
営業利益	1,569	**278**	17.7%	+24.0%
経常利益	1,569	**283**	18.0%	+24.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,005	**191**	19.0%	+25.7%
EBITDA　※	1,954	**382**	19.5%	+24.6%

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

© WOLVES HAND CO., LTD.

2027年6月期 四半期連結業績予想

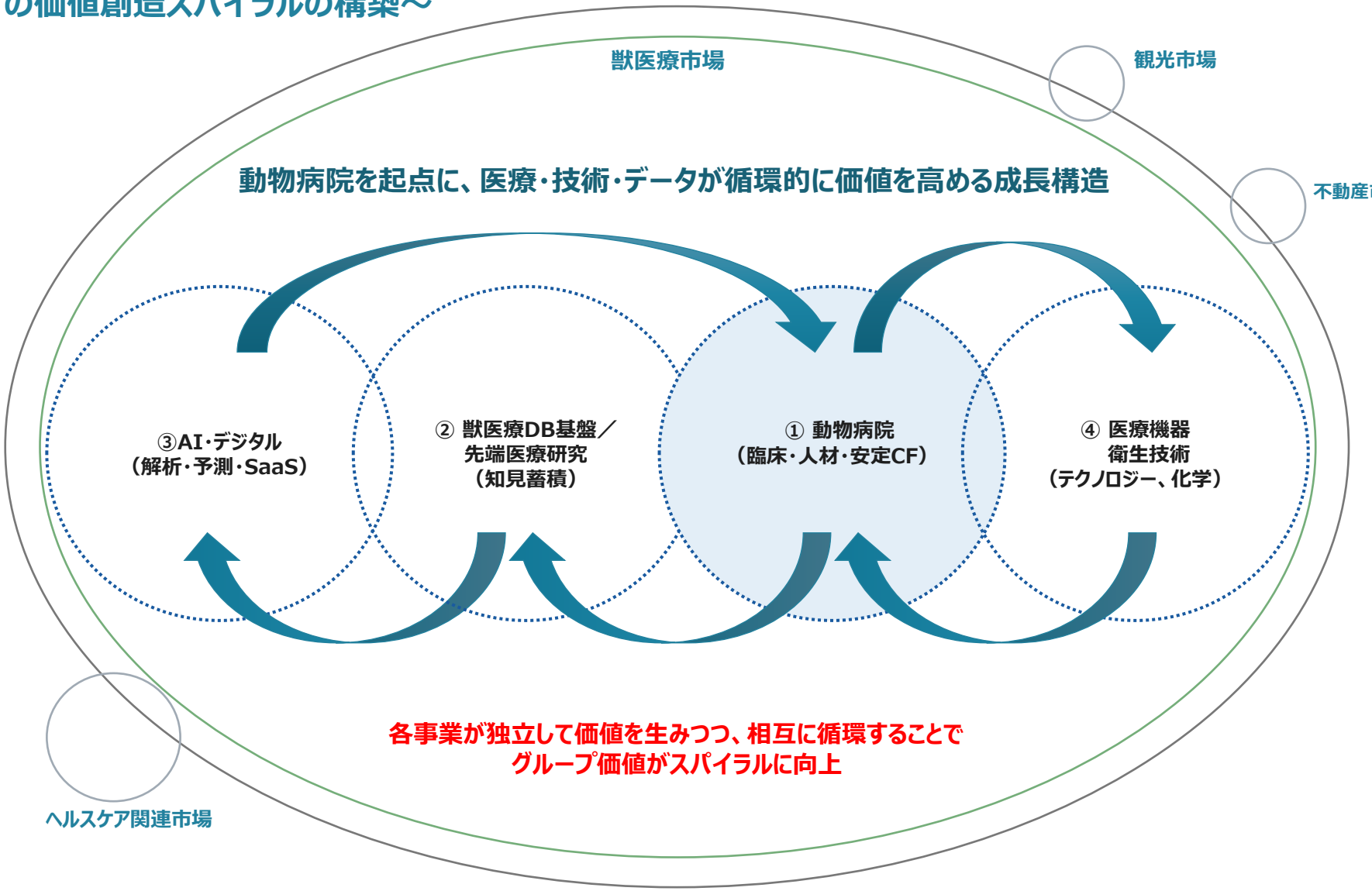
- 動物病院ネットワーク事業の四半期における業績は、４Ｑにおいて売上高及び営業利益が偏重傾向であることを考慮すると、現時点において計画を上回る進捗率となっている。
- 医療衛生機器事業の四半期における業績は、3Qにおいて繁忙期となることから、現時点において計画通りの進捗率となっている。
- バイオマテリアル事業、メディカルデータソリューション事業の四半期における業績は、現時点において計画通りの進捗率となっている。
- 研究開発受託事業の四半期における業績は、各受託案件の進捗によるものの、現時点において計画を上回る進捗率となっている。

事業区分	2027年6月期 1Q予想		2027年6月期 1Q実績		進捗率	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
動物病院ネットワーク事業	1,462	313	1,479	335	+101.2%	107.0%
医療衛生機器事業	94	△ 4	98	△ 3	+102.1%	–
バイオマテリアル事業	5	0	6	1	+113.3%	+121.8%
メディカルデータソリューション事業	31	5	31	5	+102.2%	+100.8%
研究開発受託事業	75	14	81	15	+108.3%	+108.4%

© WOLVES HAND CO., LTD.

今後の戦略
プラットフォームバリューの進化
～WOLVES HANDグループの価値創造スパイラルの構築～

- 動物病院事業で蓄積される臨床知見を基盤し、医療機器、衛星・環境技術、AI・デジタル、研究開発領域を連動させ、中長期的な企業価値向上を図る。



© WOLVES HAND CO., LTD.

各事業の概況

3



© WOLVES HAND CO., LTD.

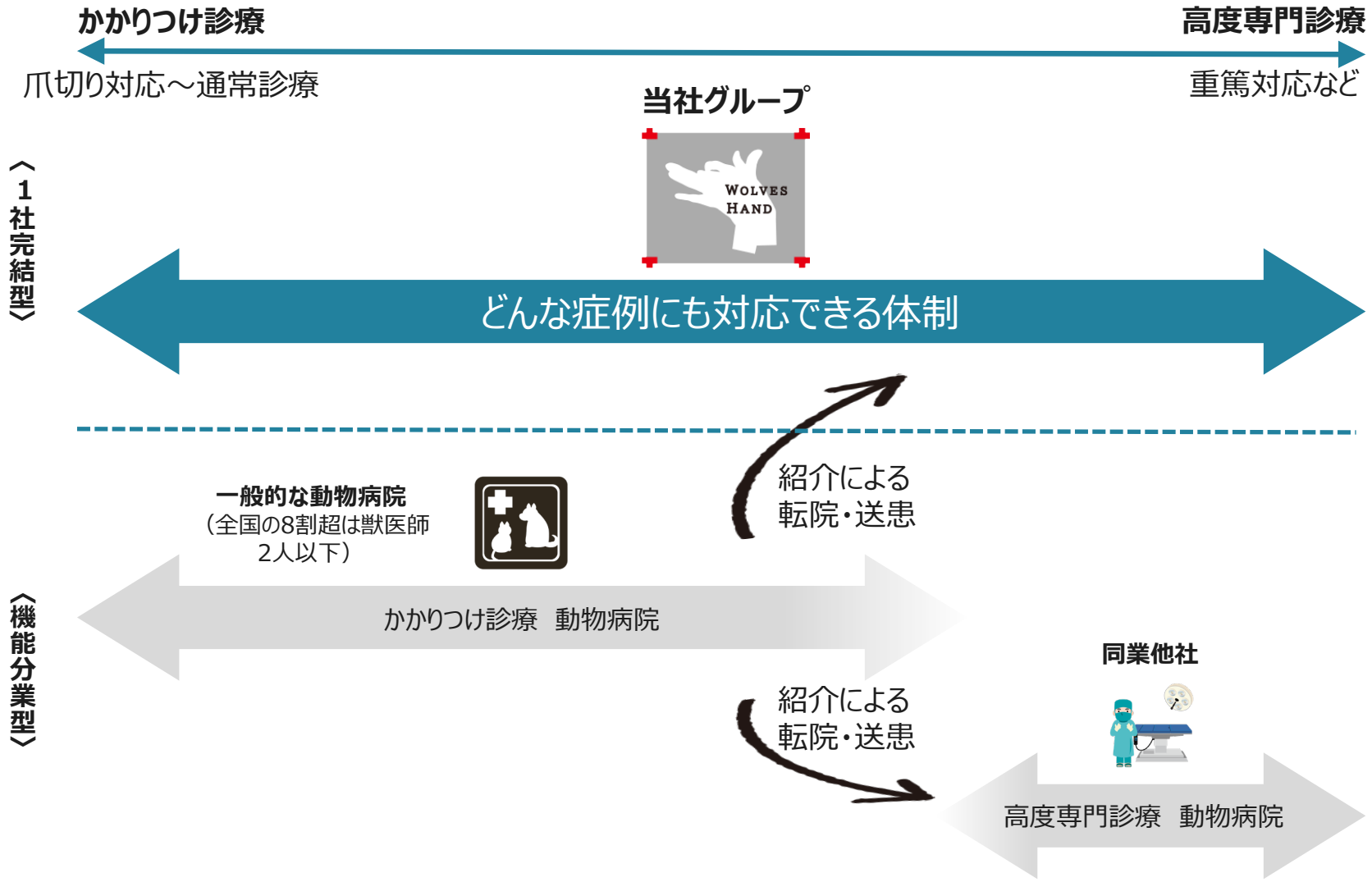
Ⅰ　動物病院ネットワーク事業

© WOLVES HAND CO., LTD.

動物医療一貫体制

通常診療から高度診療まで対応できる一社完結型の動物病院は業界では少数派と認識

- 一般的な動物病院は機能分業型が主流。かかりつけ診療と高度診療は別病院対応となっており、高度診療は紹介で受入れ
- 一方、当社はかかりつけ診療から高度専門診療まで一社で完結。外来・紹介双方にも対応できる一社完結型の動物病院は業界では少数派と認識



© WOLVES HAND CO., LTD.

若手獣医師の育成システム　診療機会提供、技術継承、人事適正化などにより、早期戦力化システムとしてパターン化

- 当社の強みを持続させるには若手獣医師の実力育成は最重要課題
- 診療機会の提供、技術継承、人事適正化などにより、若手の向上意欲に訴求。早期戦力化システムとしてパターン化
- こうした若手獣医師の育成の仕組みがベテランに頼らず、新卒採用でのカバーを実現するカギに

経営の最重要方針　若手獣医師の実力育成

1 **一貫体制に伴う豊富な診療機会の提供**

あらゆる症例への対応を実践
それらを通じ、経験値を着実に積上げ

2 **ベテラン医師からの技術継承機会の提供**

臨床を通じて技術と知識を継承
当社病院は１拠点当たり約3人の獣医師を配置
複数の獣医師チームにより、若手が相談できる体制を構築

3 **やる気に応じた人事登用システムの適用**

マネジメント志向、職人志向など、各人の志向に応じ、選択肢を提供
入社3～5年で病院長に抜擢も

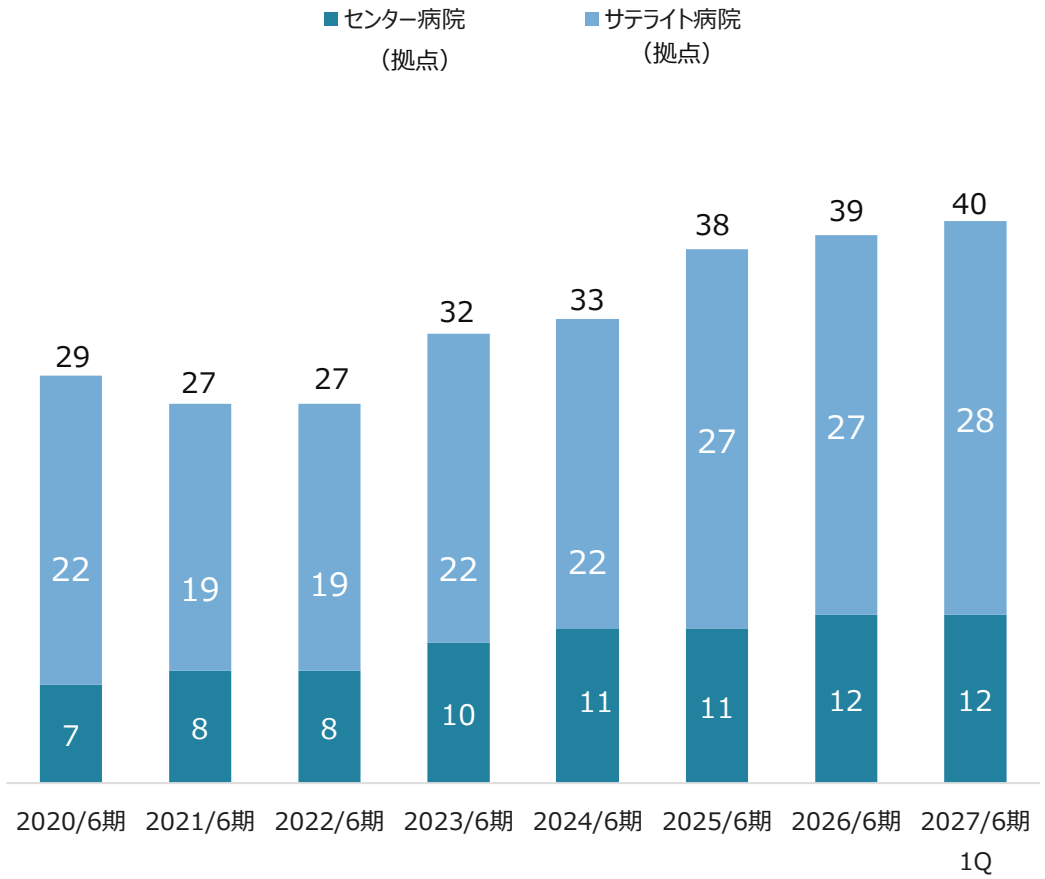
若手獣医師の早期戦力化を実現

© WOLVES HAND CO., LTD.

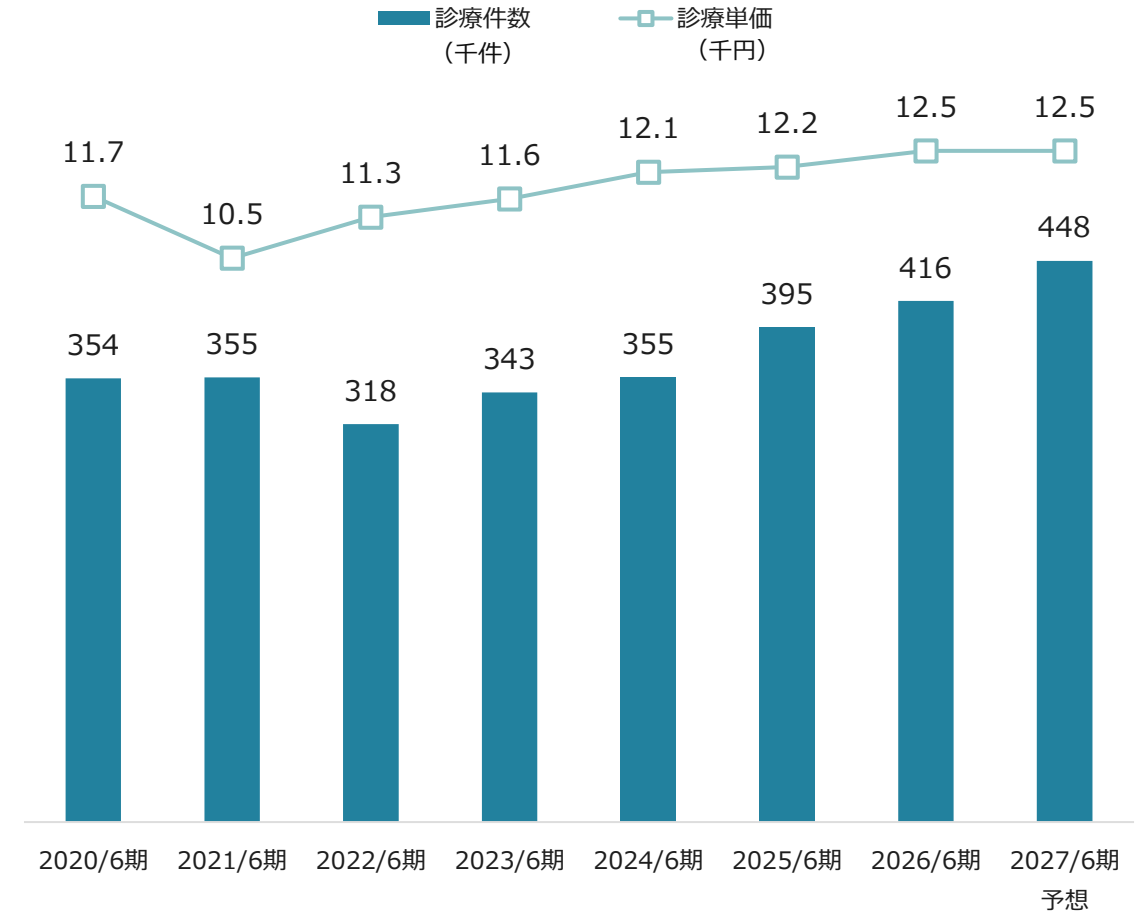
動物病院数、診療件数＆診療単価の推移

- ノースワン株式会社の株式を取得し、動物病院数は2026年9月末時点で40病院
- 診療件数は2022/6期以降増加中

動物病院数の推移



診療件数の推移



*2020/6期は6ヵ月の変則決算

© WOLVES HAND CO., LTD.

Ⅱ　医療衛生機器事業

© WOLVES HAND CO., LTD.

医療衛生機器事業概況（1/2）

- **2026年6月期において、関連会社の飛鳥メディカル㈱を完全子会社化するとともに、カルテック㈱の光触媒技術を活用したヘルスケア・環境関連事業を完全子会社で事業譲受により事業体制の基盤を確立。**

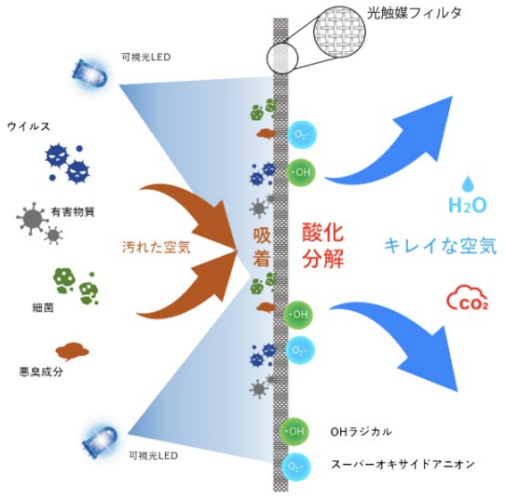
1.2027年6月期の動向

STEP 01	STEP 02	STEP 03	STEP 04
2025年10月	**2026年1月**	**2026年1月**	**2026年5月**
関連会社だった飛鳥メディカル㈱を完全子会社化	カルテック㈱の光触媒技術を活用したヘルスケア・環境関連事業を完全子会社で事業譲受	飛鳥メディカル㈱及びカルテック㈱による医療衛生機器事業を創設	共同開発による空間清浄（脱臭・感染予防）デバイス『Photo Barrier405』の発売を開始

2.各社の特性

カルテック㈱

- 光触媒技術を活用したヘルスケア・環境関連製品の研究開発、製造および販売を行っており、国立大学や研究機関等との共同研究を通じて、当該分野における高度な技術的知見および開発実績を有している。
- 光触媒技術は、動物医療分野にとどまらず、「空気」「水」「環境」「鮮度保持」「美容」等の周辺領域においても幅広い応用が期待されており、今後の社会的ニーズの拡大が見込まれる分野



飛鳥メディカル㈱

- 設立以降25年来治療用レーザー医療用機械器具の開発・製造・販売を主たる事業として行っており、特に獣医療分野において確固たる地位を確立するとともに、動物病院との幅広いネットワークを保有
- 主要製品は出力20Wの半導体レーザーが高い操作性とコストパフォーマンスを実現したD-Lase V 20 Plus。



© WOLVES HAND CO., LTD.

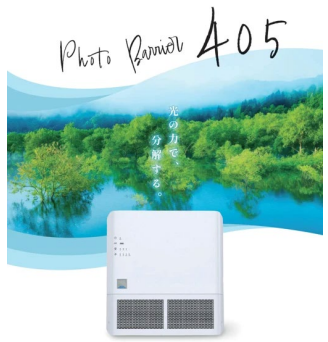
医療衛生機器事業概況（2/2）

- **今後の取り組みとして「空間を治療する」をコンセプトにデバイス販売を強化するとともに、光触媒技術・医療用レーザー技術を活用した環境・医療における課題解決を推進**

3.今後の動向・取り組み

①「Photo Barrier405」の販売開始

- 飛鳥メディカル㈱、カルテック㈱、当社所属の獣医師のグループ内共同開発により空間の環境維持と衛生管理をサポートする空間清浄デバイスの発売を2026/5月より開始
- 飛鳥メディカルが創業以来 25 年にわたり培ってきた医療用レーザー技術、そして、カルテックが特許を有する高度な光触媒技術（UV［紫外線］とは違う光の波長（可視光「405nm」)を使用）を融合した“光のシナジー”として獣医療現場の課題（臭気対策・院内感染予防）解決を図る。



【一般的な空気清浄機等】

一般的な空気清浄機・脱臭機の場合

放出式

イオン・次亜塩素酸・オゾン

〈高濃度の場合、ペットへの影響あり〉

イオン
次亜塩素酸
オゾン

一般的な空気清浄機・脱臭機の場合

フィルター式

集塵・吸着

〈物理的な捕集のみ〉

フィルター

【Photo Barrier】

PhotoBarrierの場合

PHOTO BARRIER 405

可視光 ＋ 光触媒

〈安全〉 〈原因物質を分解〉

可視光 405nm
光触媒
H_2O
CO_2

PhotoBarrierの場合

PHOTO BARRIER 405

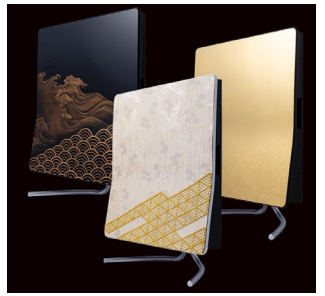
可視光 ＋ 光触媒

〈安全〉 〈原因物質を分解〉

可視光 405nm
光触媒
H_2O
CO_2

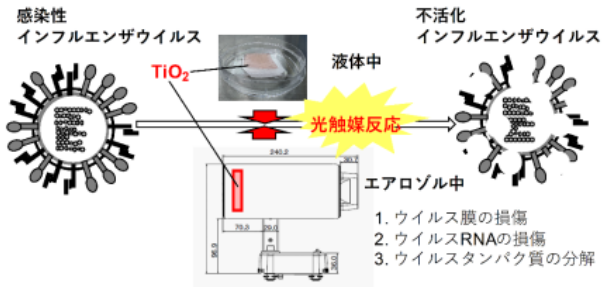
②除菌脱臭機のクラフトモデルの販売開始

- カルテック㈱の主力製品である壁掛けタイプの除菌脱臭機に、伝統工芸会社と提携し、デザインを掛け合わせたクラフトモデルの販売を今後予定。
- 光触媒が有する高度な脱臭・除菌機能に高いデザイン性を付加することでインテリアとしての機能を強化し、高級感が求められる空間・施設への導入を強化。



③鳥インフルエンザウイルスの不活性化効能の社会実装化に向けて

- 過去、東京大学 × 宮崎大学 × カルテック㈱ の共同研究において酸化チタン型光触媒技術による高病原性鳥インフルエンザウイルス及び季節性インフルエンザウイルスの不活化を証明
- 進行期（2027年6月期）、当該技術を活用して感染症対策に対する社会実装化のための実証研究を推進予定。



光触媒によるインフルエンザウイルスの不活化

© WOLVES HAND CO., LTD.

Ⅲ　バイオマテリアル事業

© WOLVES HAND CO., LTD.

バイオマテリアル事業概況

- **2026年6月期において㈱マリンナノファイバーより「キチンナノファイバー事業」を承継。**
- **同事業については自治体及び鳥取大学等と産官学で連携しながら鳥取県で引き続き事業拡大を図っていく。**

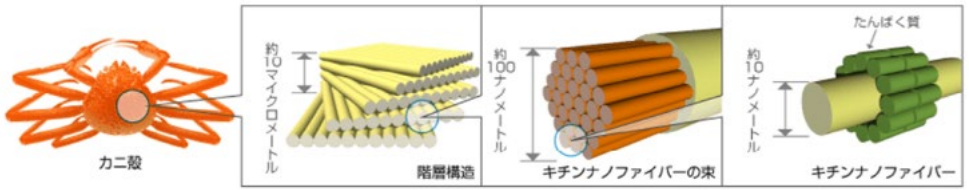
1.2027年6月期の動向

2026/4月にキチンナノファイバー事業を承継

- 従前よりキチンナノファイバーが有する高い創傷治癒促進効果に着目して、当社の獣医先端医療研究所にてCHEMIPAZ㈱子会社の㈱マリンナノファイバー社と共同研究を実施。
- 2026/4月に㈱マリンナノファイバーから「キチンナノファイバー」事業の一部である動物用医療製品および原材料供給事業を承継し、キチンナノファイバーに関する知的財産、研究開発資産、製造販売機、在庫資産および一部人材を引き継ぎ。

2.キチンナノファイバーの特性

- キチンは、カニやエビの外殻に含まれる天然由来の多糖類です。高い生体適合性を有し、**創傷や熱傷（やけど）の治癒を促進する優れた特性**を持つことから、古くより医療分野で活用されてきた。
- キチンナノファイバーは、このキチンをナノレベルまで微細化した新素材です。ナノ化することでキチン本来の特性がより発揮され、創傷治癒促進効果の向上が期待されている。
- 当社研究でも、キチンナノファイバーを用いた創傷治療について、犬3頭・猫5頭（計8頭）の難治性創傷に対する小動物臨床研究で全例完治を確認。



3.今後の動向・トピック

①鳥取ファクトリーの再稼働に伴う「キチンナノファイバー」事業の受注開始

- 事業承継後、鳥取市内にWOLVES HAND獣医先端医療研究所の鳥取オフィスおよび鳥取ファクトリーを開設
- 2026/7月よりWOLVES HAND の獣医先端医療研究所としてのキチンナノファイバー製品「カイトベール」、および、同原料の製造販売を開始

②鳥取県における事業拡大

- バイオマテリアル事業にいては鳥取ファクトリーを置く鳥取県や、獣医先端医療研究所岡本所長が元教授を務めていた鳥取大学等と産官学で連携しながら事業規模を引き続き拡大していく。
- 2026年7月22日の鳥取県知事の記者会見でも当社のキチンナノファイバーに関する取り組みについて紹介されており、自治体として支援することについても言及があった。

【2026/7/22　鳥取県知事記者会見コメント（抜粋）】
「株式会社WOLVES HANDが鳥取県内に獣医先端医療研究開発拠点『鳥取ファクトリー』を新設されることを歓迎します。鳥取県がこれまで取り組んできたカニ殻由来のキチン・キトサンや、鳥取大学で研究が進められてきたキチンナノファイバーの技術を継承・発展させ、ペット向け治療への応用を目指す取り組みとして期待しています。県としても、研究開発拠点設置支援補助金を通じて、本事業を支援してまいります。」

© WOLVES HAND CO., LTD.

Ⅲ　メディカルデータソリューション事業

© WOLVES HAND CO., LTD.

メディカルネットワークソリューション事業概況

- **2025/11月に株式会社ダイナコムとヘルスケア・医療データの利活用を進める共同研究契約を締結。**
- **当社システムのわん太郎・VMNとダイナコムの知見を融合させて獣医療DBの高度利用のビジネス開発を推進。**

1.2027年6月期の動向

2025/11月に株式会社ダイナコムと獣医療データベースを活用したヘルスケア・医療データの利活用を進める共同研究契約を締結

- 2025/11月にダイナコムの保有する医療データの解析技術や知見と、当社が保有する獣医療の臨床DB を活用し当社の電子カルテ(わん太郎)由来のデータの現状分析と解析ビジネスの検討を開始

- 2026/3月に電子カルテ由来のデータの現状分析、次世代電子カルテシステムのクラウド化の発展的課題抽出、および、臨床支援 AI の導入プロセスの情報工学的な基礎研究方針の立案が概ね完了。
- 2027年6月完成に向けた要件定義フェーズ進行中。

【㈱ダイナコム概要】
所在地：千葉県千葉市美浜区
設立：1995年1月
資本金：70百万円
ダイナコムは、バイオインフォマティクス専門企業としてデータ解析とシステム開発を行っている。特にゲノム解析やヒトの医療分野において数多くの実績を積み重ねており、先進的な技術と豊富な経験を活かし、医療現場のニーズに応じたソリューションを提供している。

2.今後の動向

- 当社が保有する電子カルテシステム（わん太郎）由来のデータの解析を通じて、**がん・心疾患・腎臓疾患リスクの予測や治療効果分析サービスの提供、獣医療の現場支援の AI 導入など、獣医療DBの高度利用のビジネス開発**をダイナコムと共同で目指す。

- 当社が運営する獣医療関係者向け教育支援サービスであるVMN（Veterinary Medical Network）における学術的情報も統合することでより高度機能化を図る。

© WOLVES HAND CO., LTD.

Ⅳ　研究開発受託事業

© WOLVES HAND CO., LTD.

研究開発受託事業概況

- **2026年7月にCRO・SMO事業を行うメディトリックス社を完全子会社化。**
- **市川康明博士を獣医先端医療研究所の共同代表として招聘し、体制の強化を実施。**

1.2027年6月期の動向

①CRO・SMO事業を行う株式会社メディトリックスを完全子会社化（2026/7/1付）

- メディトリックスは医療・ヘルスケア領域においてCRO（Contract Research Organization：開発業務受託機関）及び SMO（Site Management Organization：治験施設支援機関）事業を展開しており、臨床研究支援、治験運営、データマネジメント等に関する豊富なノウハウを有している。
- **メディトリックスのグループ参画により、当社グループは、研究テーマの創出から研究開発、臨床研究、治験、製品化及び社会実装に至るまでのバリューチェーンを強化し、グループ内で一気通貫して推進できる体制の構築が可能となり、獣医療価値創造プラットフォームの基盤が確立。**

②動物用幹細胞培養上清液を用いたアンチエイジング研究が「学会長賞」を受賞



- **2025年11月9日、東京都内で開催された「第68回比較統合医療学会学術大会」において、当社は「犬羊膜由来幹細胞培養上清液を用いたアンチエイジングに対する効果」に関する研究成果を発表し、栄誉ある学会長賞を受賞**

③獣医先端医療研究所の体制強化

- 放射線物理学・数理物理学・医療工学分野において国内外で豊富な研究実績を有する**市川康明博士を、当社「獣医先端医療研究所」の共同代表として招聘。**
- 市川博士は、工学と医療を融合する研究開発を牽引し、名古屋大学及び岡山大学において長年にわたり数理物理学・放射線物理学・放射線医学を専門としており、ホウ素
- 薬剤を取り込んだがん細胞のみをピンポイントで殺傷するホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の技術開発等に深い知見を有している。

2.今後の動向

- 研究開発活動に関して、現状進行中のものも含め外部企業と連携をしながら継続して推進。

- メディトリックスの知見を活用して、**日本発の本格的な動物医療版のCRO・SMO事業の確立を推進。**

© WOLVES HAND CO., LTD.

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

【お問合せ先】
株式会社WOLVES HAND　経営管理本部

電話：06-6599-9106
Mail：info@wolveshand.jp

© WOLVES HAND CO., LTD.